

学校法人大阪星光学院 平成22年度事業報告書  
(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

I. 法人概要

学校法人大阪星光学院は、教育基本法及び学校教育法に従いつつ、カトリックの教育精神及び設立母体であるカトリック・サレジオ修道会の創立者ヨハネ・ボスコの教育理念に基づく教育を行い、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

1. 設立年月日

昭和25年12月22日

2. 設置する学校及び生徒数

学校	学年	定員数	生徒数*
大阪星光学院中学校	1年	200	189
	2年	200	190
	3年	200	187
大阪星光学院高等学校	1年	200	225
	2年	200	219
	3年	200	213
合計		1200	1223

\*生徒数は平成22年5月1日現在

3. 設置する学校の所在地

学校法人大阪星光学院

〒543-0061 大阪府大阪市天王寺区伶人町1番6号

4. 教職員の概要 (平成22年5月1日現在)

	教員			職員		
	本務	兼務	計	本務	兼務	計
中学校	27	非常勤講師 5 特別非常勤 講師 3	35	事務職員 3 受付 1 営繕 3	南部管理 1	8
高等学校	37	非常勤講師 4 特別非常勤 講師 1	42	事務職員 3 電気営繕 1 養護 1 営繕 1	カウンセラー 1 山荘管理 1 図書 1	9
合計	64	13	77	13	4	17

5. 役員概要 (平成23年3月31日現在)

定員：理事6人以上8人以内、監事2人以上3人以内

理事長 チプリアニ・アルド

常任理事 鈴木英史 (大阪星光学院中学校・高等学校校長)

々 田中次生

々 田沢幸夫

々 長谷川純也

々 野出明敬  
 々 井上末廣  
 監事 國分紀一（公認会計士）（2月19日逝去）  
 々 福井善昭（司法書士）

6. 評議員の概要（平成22年3月31日現在）

定員：15人以上17人以内 現在15人

チプリアニ・アルド 田中次生 鈴木英史 長谷川純也 田沢幸夫 野出明敬 井上末廣 小田原賢 範国平次  
 宮本浩司 小林敏男 田丸寛二 松下一彦 小寺史郎 吉田博史

II. 事業の概要

1. 教育の充実

1) ミッションスクールとして宗教教育の充実

毎週1時間の倫理の授業を通じてカトリックの理念を伝えています。更にサレジオ修道会会員、信者の教職員及び有志の教職員が加わって宗教教育委員会を設け、ドン・ボスコの教育の根幹をなすアシステンツァの教育の実践方針を検討しています。

2) 中高一貫教育の充実

成長期にある生徒への教育方針は、愛と奉仕の精神を基盤に、人間の成長をトータルに捉え、徳・知・体をバランスよく育むことです。それには、中高一貫教育による「理解と信頼」を培うことが不可欠であると考えています。研修館・南部学舎・黒姫星光山荘での生徒・教師が、寝食を共にする校外教育活動の重視は、その端的なあらわれです。

3) 学力向上

中高の6ヵ年一貫教育による「理解と信頼」を基に、生徒の希望の進学に向けての学力向上と、心の教育として心学に努めました。定期考査及び実力・模試の実施とその成果を単年度単位ではなく、6ヵ年を総合的に見通し、第一期（中学1・2年）は基本的生活習慣を確立し、基礎学力の充実を図り土台を固め、多様な価値観を容認するおおらかな心を養うよう指導。第二期（中学3年・高校1年）は第一期で築いた土台の上に立ち、関心領域を積極的に拡大しながら考える力を伸ばし、自分の適性の発見に努められるように指導。第三期（高校2・3年）は理系・文系に分かれ、各自の進路実現に向け、学力の更なる充実を図るとともに、社会的存在としての自覚を促す指導。このように成長段階に合わせた教育プログラムの実践にて生徒を把握し、生徒指導に資するようになりました。補習授業、補習合宿、多方面の講演会等の行事、さらに保護者・生徒との面談も学力向上につながるものです。今年度の大学入試は以下のとおりでした。今後も、生徒の希望する進路確保に努める所存です。

◇大学進学状況

年度	平成22年度		
卒業生	213		
現浪別	現	浪	計
国立大学	79 (6)	69 (13)	148 (19)
公立大学	32 (12)	17 (7)	49 (19)
私立大学	86 (11)	212 (19)	298 (30)
準大学	防衛医科大2内二次棄権(1) 防衛大1		防衛医大1 二次棄権(1) 防衛大1
合計	230 (46)	257 (24)	487 (70)

( ) 内の数字は医科系への進学人数

◇主な大学別合格者

年度	平成22年度		
卒業生数	213		
現浪別	現	浪	計
東京	7	4	11
京都	38	15	53
大阪	18(4)	13(1)	31(5)
神戸	4(1)	9	13(1)
一橋大	3	3	6
北海道	2	2	4
東北	2(1)		2(1)
秋田大		1(1)	1(1)
筑波大		2	2
名古屋大	1	1	2
三重大	1		
滋賀大	1		1
滋賀医科大		2(2)	2(2)
京都工繊大	1	2	3
大阪教育大	1	1	2
鳥取大		1(1)	1(1)
岡山大		3(1)	3(1)
徳島大		2(2)	2(2)
高知大		2(2)	2(2)
九州大	1	1	2
国際教養大	2		2
福島県医大	1(1)		1(1)
首都大東京	1		1
大阪市立	11(5)	5(0)	16(5)
大阪府大	11	5	16
京都府立医	2(2)	1(1)	3(3)
奈良県立医	4(4)	4(4)	8(8)
和歌山県立医		2(2)	2(2)
早稲田	4	23	27
慶応	11	21	32
同志社	27	51	78
関西学院	7	8	15
関西	16	28	44
立命館	6	23	29
大阪医科	6(6)	5(5)	11(11)
関西医科	1(1)	1(1)	2(2)

( ) 内の数字は医科系への進学人数

4) クラブ活動の活性化（平成22年6月現在）

クラブ活動も学習とともに学校生活を豊にするものであります。多数の生徒がクラブ活動に参加しています。

<文科系クラブ> 中学生： 45名 高校生：133名

<運動系クラブ> 中学生：450名 高校生：337名

クラブ名	中	高	計	クラブ名	中	高	計	クラブ名	中	高	計
天文	0	7	7	美術	1	4	5	テニス	86	70	156
ライフサイエンス	5	16	21	新聞	2	5	7	卓球	38	16	54
化学同好会	1	4	5	文芸	0	8	8	野球（高）		52	52
電気工学同好会	7	7	14	カトリック研究会	3	9	12	野球（中）	73		73
物理研究同好会	0	10	10	書道	1	7	8	ホッケー	15	19	34
地歴研究	8	1	9	囲碁将棋	10	18	28	柔道	22	23	45
数学研究	4	4	8	クイズ研究会	2	9	11	弓道	42	21	63
ESS	1	6	7	アカペラコーラス同好会	0	4	4	サッカー	52	49	101
放送	0	8	8	陸上	26	14	40	剣道	29	20	49
吹奏楽	0	4	4	バスケットボール	53	42	95				
写真	0	2	2	バレーボール	14	11	25				

2. 平成23年度生徒募集の状況について

1) 中学入試科目と合格者発表

<入試科目>

I型：4科型（国語・算数・理科・社会）

・4科目の合計点、国語・算数・理科の合計×1.25、国語・算数・社会の合計×1.25の内最高点を本人の成績とする。

II型：3科型（国語・算数・理科）

・3科目の合計点×1.25を本人の成績とする。

<合格発表> 受験者（I型＋II型）の成績上位より定数を合格発表する。

2) 高校入試科目と合格発表

<入試科目>

1 次試験：5科目（国語・数学・英語・理科・社会）

1.5次試験：3科目（国語・数学・英語）

<合格発表> 1次、1.5次入試ともに、成績上位より定数を合格発表する。

3) 生徒募集状況（平成23年1月、2月実施）

中学は入試科目変更後2年目の入試で、出願者は昨年度より28名減少しました。受験科目の変更が定着し、試し受験生の減少による。3科目受験校からの併願が可能となり、当日欠席が昨年より12名増加した。合格発表後の辞退者により受験生の確定が難しく、結果的に追加合格者14名を発表した。高等学校では府立高校の学費無償化、学区制の変更や前期後期の受験機会増の影響もある中で、出願者には大きな変化はなかった。入学後の学力確保が数年難しいため、今年度は合格者の発表を押さえ昨年より11名減の入学者数とした。

体育大会、スクールフェ等の受験生見学の受入、渉外部の先生の塾主催の説明会や講演会への参加や小学校の説明会、塾向け学校内の案内では生徒の協力など積極的に広報活動を行ってきたことによる結果だと考えられる。今後も継続的に行う必要がある。

4) 平成23年度入学試験の概要

高等学校		
年度	平成23年度	
	1次	1.5次
志願者数	41	105
受験者数	39	105
合格発表者数	23	62
合格最低点	270	155
実質競争率	1.7	1.7
入学者数	11	20
内部進学者	181 (合計212)	

中学		
年度	平成23年度	
	I型	II型
志願者数	498	178
受験者数	466	154
合格発表者数	209	83
合格最低点	260	
実質競争率	2.1	
入学者数	188	

III. 財務の概要

以下に記載した財務の概要は、学校法人会計基準に基づき作成した計算書類を要約したものです。

1. 資金収支計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収入の部 (単位 千円)			
科 目	補正予算	決 算	差 異
生徒納付金収入	837,621	838,711	△1,090
手数料収入	16,790	16,838	△48
寄付金収入	25,500	26,454	△954
補助金収入	207,226	268,318	△61,092
資産運用収入	1,116	1,429	△313
事業収入	10,000	7,781	2,219
雑収入	10,929	11,189	△260
前受金収入	114,060	114,060	0
その他の収入	71,058	71,060	△2
資金収入調達勘定	△ 137,587	△135,342	△2,245
前年度繰越支払資金	314,296	314,296	
収入の部合計	1,471,010	1,534,794	△63,784

支出の部 (単位 千円)			
科 目	補正予算	決 算	差 異
人件費支出	819,540	817,019	2,521
経費支出	125,278	128,348	△3,071
借入金等利息支出	59,726	59,726	0
施設関係支出	13,060	7,850	5,210
設備関係支出	5,000	3,941	1,059
資産運用支出	100,000	112,000	△12,000
その他の支出	1,644	18,151	△16,507
貸金支出調整勘定	△ 3,056	△1,682	△1,374
次年度繰越支払資金	349,819	389,441	△39,622
支出の部合計	1,471,010	1,534,794	△63,784

2. 消費収支計算書（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(消費収入の部)		(消費支出の部)		(単位：千円)
科目	決算	科目	決算	
生徒納付金	838,710	人件費	828,521	
手数料	16,838	経費	304,462	
寄付金	28,224	(内減価償却額)	176,113	
補助金	268,318			
資産運用収入	1,429	借入金等利息	15,886	
事業収入	7,781	資産処分差額	655	
雑収入	11,189	徴収不能額	0	
帰属収入合計	1,172,489			
基本金組入額合計	△11,797			
消費収入の部合計	1,160,693	消費支出の部合計	1,149,524	
		当年度消費支出超過額	0	
		前年度繰越消費支出超過額	1,068,880	
		翌年度繰越消費支出超過金	1,057,711	

3. 貸借対照表（平成23年3月31日）

科目	(単位千円)	科目	(単位千円)
<b>固定資産</b>	4,836,306	<b>固定負債</b>	766,298
有形固定資産	4,087,680	長期借入金	656,400
土地	85,505	退職給与引当金	109,898
建物	3,370,469	<b>流動負債</b>	216,588
構築物	265,293	短期借入金	43,760
機器備品	281,049	未払金	626
図書	83,520	前受金	114,060
車輛	1,844	預り金	58,140
その他の固定資産	748,626	仮受金	2
		<b>負債の部合計</b>	982,886
		<b>基本金の部</b>	
<b>動資産</b>	408,976	第1号基本金	5,205,107
現金預金	389,441	第4号基本金	115,00
未収入金	18,782	<b>基本金の部合計</b>	5,320,107
前払金	634		
仮払金	119	消費収支差額	△1,057,711
<b>資産の部合計</b>	5,245,282	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	5,245,282